

バイオ・ライフサイエンス



キーワード：身体、病い、アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎の身体についての社会学的研究

現代社会学部 現代社会学科 特任助教

加戸 友佳子 KADO Yukako

研究の内容

現在中心に取り組んでいるのは、自身も罹患するアトピー性皮膚炎を起点にして、①現代の身体観を批判的に検討すること、②この病をもつ人が、周囲との関係の中でどのように生きているのかを明らかにすることです。

①については、近年蓄積されている身体論、スキン・スタディーズ（皮膚を対象とする学際的な研究）よりヒントを得ながら、新型コロナウイルス流行を経験してきた我々にとって、どのような身体認識が可能なのかを考察しています。

②で現在焦点を当てているのは、アトピーにとって特徴的な、自分の体を「掻く」ことです。「掻き」プライベートな場でなされるとよく言われますが、実際には他者とのやり取りの中でもなされています。会話におけるその様相や無意識の技法を、ビデオ映像を利用し分析しています。

完治しない、付き合っていく病について、「治す」以外の視点からアプローチしています。



図 Zoomでの会話における加戸の「掻き」。短時間で複数箇所を掻き、メモを取る体勢にシームレスに移行している。これ以外にもさまざまな方法で「掻き」は行われる。

産学連携・社会連携へのアピールポイント

自己の身体の制御不足（我慢ができない人）としての偏見が持たれがちな病について、そうではないオルタナティブな見方を提供します。

研究者総覧（加戸 友佳子）

URL : https://gyoseki.setsunan.ac.jp/html/200000685_ja.html

